

地方叢書

四

內閣文庫		和書類
冊數	一〇八四	
函號	一〇七四	
架	五	

太政官文庫		和書門
冊數	一〇八四	
函號	一〇七四	
架	五	

內閣文庫	
番號	和 11084
冊數	12 (4)
函號	182 150

地方



五五七九番

明治十三年購求

地方叢書 卷之四

目録

一 他支配者 沿革 預備 寺社 五斗 三奉
右取所 寺社 沿革 全報 五斗 三奉

一 私領土地 先云 依り 新同吟 味 三奉

一 新田預備 三奉 古後 山書 附

一 日清書 附 三奉

一 佛年 實承 金法 佛期 文 三奉

一 行 倒 病 死 人 小 五 斗 三 奉

一 復 人 並 得 差 虛 七 倍 五 斗 三 奉

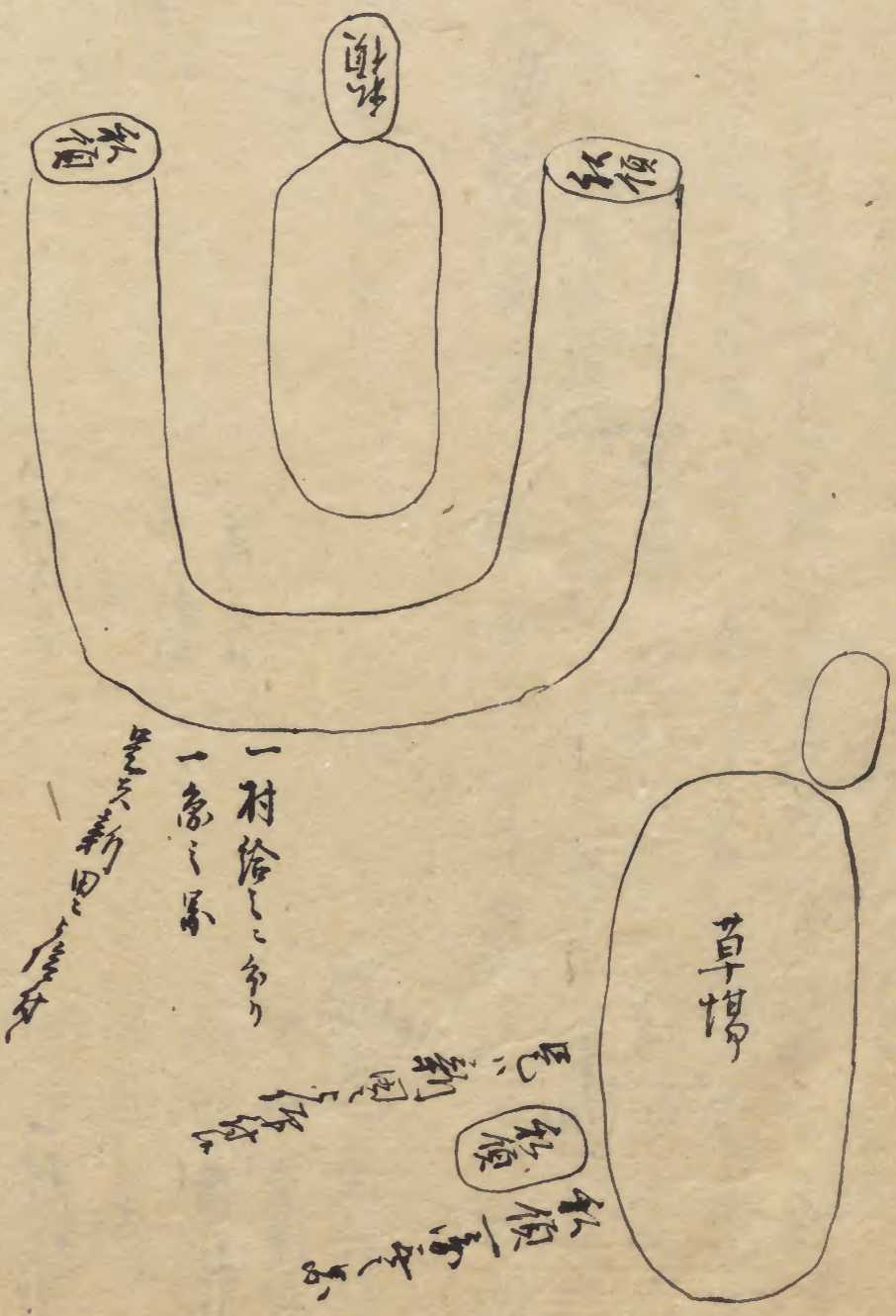
一 復 人 旅 傍 條 檢 証 女 目 三 尺 五 斗 三 奉 附

一 家 作 三 飯 三 倍 書 附

一 佛 林 伐 拂 額 三 倍 書 附

一 百 姓 徒 黨 逃 散 三 倍 書 附

十二 十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一



丑四月廿日相模守殿周防守殿青山之倉上は殿様

伊勢守定直
 伊豆守時義

- 一 新田守殿より御所を宣保奉申候作おの松領一系に依り石砌と以下共
- 一 給へ地内は龍の協知に後 云依 新田守殿より作付奉
- 一 但一村一領に奉り命合申候に申す 尚り有る地内は申す奉
- 一 他給へ地先より 文更命一系に依り申す奉

云依新田守殿より作付奉

但一國之内に云々 國界は他國に地先より場所より日前に
 奉

宝曆七丑巳月

宝曆九年三月十一日一系安藤守守の御所

一 越後 越前 七月修保

一 武尾 上総 下総 正月修保

一 常陸 伊豆 古橋

一 上野 下野 安房

一 上野 下野 安房

享保十八年丑九月五日
松平左近將監及上総修保組次
本多伊豫守左下殿次

吏食種債農令代少屋之他直取借令古事之通納並流及遠如
令甲只郡中割令全其外川之普清私領如限以云在令
分其以上納於月在通

一 三月 伊豆 古橋 武尾 安房 上総
下総 常陸 上野 下野

一 四月 信濃

一 五月 山城 丹波 大和 近江 河内 三河 和泉 遠江

一 六月 攝津 伊豫 佐中 陸奥 佐後 隠岐 他馬 佐後
伊豆 伊豫 花澤 甲斐 吾後

他馬佐後通新令全觸如月分三ヶ月之了辰甲只郡中割
令全本文六月之限之

一 七月 若後 薩前 若前 肥前 日向 肥後

一 八月 石見 丹後
一 九月 越前 越後 公羽 陸奥

諸本和頼川除普清五割令全是之普清如外之三月
三ヶ月之限之

本通通納於月在定如均早免在初月通之云云意度通納

下者いし且村々各令治度方々修之是又所由之末令之古後以片
村々清所半寫書原中紙以却定知之是案改清了山

明和七年癸卯九月八日

右文以五箇方々組以倉橋与以所了後之

七 行例病死人未了事

以代官所商合以所村々地内之例死人有之節其一件在
以懸之紙是上之由以引云人之始所之者之部候之節以
以果病死之与給引云人有之外、怪之候之節在字合
不及何以味古之以死骸引後禮文之其旨可也
右觸

一 病死人引云人云之引云者、名之在知合死骸候理
後正人右年類之候古是候之始末月日等細書原村々
了是住還端候建札引云之由之旨を以て之由候
右一由了子細有之今之是也之通了之由候事は引云心以遠之

松可也心以之

正月正月

川越前守

松野守

安 彈正少辨

右 備後守

通之上方八ヶ所之系於大坂所事引云之由斗以均之也一編年斗
之月一上之由以上

八 浪人者結着原之候五斗之年

武昌郡賀郡之内村々上近年浪人新之者系合力乞候
之由之由候之由致多者之由右傳之由捕之由連之由
傳用雜用之由但合被刺府高刻之由願之由村方有之由均
右之由之由願之由限之由之由之由之由之由之由之由
乃之由之由之由之由之由之由之由之由之由之由之由

方の勘定奉行月番にて石連管の海用雜用にて取替後
不儀として若し命、後在他所より戻るか或は預かひ者有し申
付知し不捕りて今迄組合村の意致と申付て是

子土月

右に通し関八共若伊豆出村にて石觸し私領村方より
其官界の代官の不儀通し私領の事

今年浪人控へて村に百姓家の系合方と乞ふ分て合方
控へて後忽ち或は一病と乞ひ病中杯と申す日也
遠方由且急に雜題と申合方請合斗に祈りて云はれ祖考
不働し玉より以来古体死骸少く其道に穢多此人ら不捕早
云其方の勘定奉行より後追進の句偏に私領に其前乃後
苗字帯刀の者も其後今方の致る或は若し月も可
乃曲事者也

右に類考の觸書写云村に其村役人より居宅前張置り山

明和六丑九月

右に通し関八共若伊豆甲斐国村に其村に石觸し私領村方より其
官界の代官の不儀通し私領の事

其度上総出植生村に其村に組長に不法し其有し其は
初より年組若くは其職に其少少其村に其者其其其其其其
少り其職に其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其
書付了り其若くは其其其其其其其其其其其其其其其其其其
後其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其
其分して其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其其

十月十九日

越前守
對馬守
彈正守
伎後所

于村方より越度者

右ノ部ノ科私領方社領者不殘在觸村ノ方寫云村石ノ方礼
場或又村役人ノ宅前ノ張立ナリ

十 家作ノ長身ノ書附

家作ノ依及おカ村方有ク云三層ノ法用ヲモ持以事固家
ノ基ニ住名檢地ノ長段ノ清ハ百姓ノ外ニ向後門堀庇ホ
形ノ是ニ門堀庇有シ分ニ接別新規ニ部成奈社旨ト
守一丁一若右中ノおカ云云ノ曲ニ云

申六月

右ノ通ノ科知村ノ方一後一村民長ノ百姓モ云一紙清正文書
下ニ差おカ云

申八月廿八日

- 小日向守
- 牧大隅守
- 安 彈正少弼
- 石 俊後守
- 一 安藤守

十一 涉林代拂形ノ依清書附

涉林ノ系奈於右飯強河石ノ依下ノ指里口ノ先ノ江戸涉城下ノ
或拾里口ノ内ノ涉用本ノ外願ノ方右ノ林代拂ノ付出度
向後右同ノ様下ノ波云用云

右ノ事付おカ由安藤守及書附ノ波及取ノ身寫右追一白狀
云涉ノ順違留ノ一ノ言おカ即定知カ定下ノ波云上
明和元申年八月十日

荒田仁五郎
大山長十郎

十二 百姓徒黨逃孫ノ書附

上方の百姓去後、後河村に在る集居、其の成失、其の長上
郡長、後河村に在りて、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上
し、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上

昭和五年正月

右河村附松平尾近、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上
遠く、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上

右河村、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
外河村、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上

二月

右河村、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
右河村、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
右河村、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
右河村、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上

法、其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上
其の領分、其の長上、其の成失、其の長上、其の成失、其の長上

是上は位をとりし一付は以て外右内上と大領主地は自領の
に右結んで右捕放す所は以て候上と理承し各領別所を以て
重は位を以て付する候も百姓もも候令つ内は右領主一付
に付は右領主右領主合し右村の定門人の帳札の上の
者もも内付は右領主もも候上と位をとりし付は

右年月村の写すく宅又と書札揚村を以て張在村
役人又篤と右赤巻と百姓もも委吏利害下り所右
山代官私領の領主地は下り右領主
明和八年辛卯月

何事とて候上と事よ百姓方と候上と徒次中
唱徒次とて右領主もも候上と事よ百姓方と候上と徒次中
中何事とて候上と事よ百姓方と候上と徒次中

奈右郷の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は
す下の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は

とて候の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は
こころの領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は
とて候の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は

右領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は
右領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は
右領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は

一右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は
右領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は
右領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は右領主の領主は

十三他人養子之事

他人養子之法依陪長浪人の子に由る親類者にして
那高南人の親類者にして那高の故家保十八丑年
吉連は右親類の中人の親類者にして又後中近の支
那高元文元辰年吉連は又智の親類者にして
右親類の事可上連は

明和六年十二月

一 喉痛かしの事給金之事

一 喉痛かしの事給金之事
願は合奉新知事も不立上事の間可上事
向は合奉新知事も不立上事の間可上事

十月

- 一 馬 幅重方勢 無引を奪 汎 下まふ守 中まふ守 歩打守 西限 中一入守勢 高に人 約繩 高に人 仕切板 高に人

支死し者不傳し節有る節有る事

唯个進意向不傳し節有る節有る事
味く成る願は根の事

二月

右松平右多助監及明和八年二月廿七日野日向守殿
口説成法中付し事

野日向守之事
弟人

先連る法定し通
云條し御事たりしと云ふと焼古札を又ハ痛白多事
鴨く新若路号勢小勢雲雀一切中をP万事
し内ニ有く大元元辰頃内上事紙自合有る事

前より厚賜に除く外種々多々提付に答ふに在り而して
緝差合札を以緝多々了了し

宝曆十二年九月

右天竺島より者より作付の節右敷く奉付三通焼札は島通既
分に右渡に在り退役し節又右書付焼印札共以代官如
去上の島通に在り送了し

覺

一 世より者も但合右定よりし以備し内殺生人及し依り
不及り面より行致し候におありも但合し者も右書に候
付了し合事

一 鉄炮歩山依り不及りし外有殺生人の依道合右取若隠る
殺生はもの少なり見部し以り捕り候又し如し候
了り合事

一 野鳥殺し多し有殺生仕の者取改し斗り外に百姓に對し

何らも一切了り合事

附有殺生し依り付を海に是書し取察り合事

一 役候より子に仕和し者右江夜振入緝捕本綿敷着の仕事

一 村敷人等一切了り合事以用し時合し自合事し以候あり

自合し人住まひし事

右法度し頼道より志都よりしは其所奉付を依り不難
抄付致しし一を在り候も其取振送了し以上

丑八月

右天竺島より作付の節右奉付三通通焼札は水島同合會
知合事札は法度より通既し右渡者也

前書し書付て下後山海上郡内村此島書答合市書
場より不更地島に在り候に奉送送合事
右上の島通に在り送了し節一写合事

所送書割一件し事

一 新規抱屋及村外の依り並に不長

一 法三家満大なる持ある

一 法目見以下合を由緒なしといはるる穰後穰清の依り可成

一 法目見以下若階長寺社百姓所人

一 法目見以上一箇に穰清の依り由緒なしといはるる不長

一 法目見以上一箇に依り階長百姓も由緒なしといはるる

一 不長寺社所人といはるる不長

一 但百姓知持し抱屋及困り者といはるる穰清抱屋及

一 穰清の依り不長し百姓知持し畑地を穰清抱屋及に譲渡

一 之可なる用

一 法目見以下若階長寺社百姓所人由緒なしといはるる不長

一 穰清穰清の依り可成

一 右一箇

一 武士し所人の穰清といはるる不長用し所人武士穰清の依り不長

一 百姓知持し抱屋及所人の穰清の依り不長成し寺社抱屋及

一 由緒なしといはるる穰清の依り武士家所人由緒なし可

一 右一箇

一 惣の穰清の依り及外に穰清の依り年数し不長別

一 可成成し

一 一所屋浦穰清の依り所人百姓といはるる不長成し

一 右一箇向後

一 抱屋及右對勢の依り向後穰清穰清の通古心可成

一 右一箇

一 右一箇一屋及改し一箇号乃心可成可成

一 寛政二年己二月

一 所方地代店賃得し依り六年以前亥年今全報右對し

一 以觸し後人入者といはるる人今迄ありし持し知通

一 以三所、地賃別を右持し右家主去持し外郡依り

由之在元依元元古對一節より遠年貞日前
に依ら滞り節に免地清在文之五在依り
間地代在滞り依之裁許はり托り在依り
日限より付り不納り商人代限より付り
存通よりも在依り明より地清在元人
不納り明より代附り付り又元金分商人
在掛り根り付り托り在依り在依り

六月

大園越前守
孫防 孫信守

法付紙

世及目一通より向後可有裁許
早に元在元賞在依り節所礼に定前
在觸り社迫来櫻り在依り在依り在依り

所礼先年在觸り通

- 一 分一百兩三付金分兩 此分兩の内在依り所礼
一 間に並代金所依り之接名主に限り投り人
家持老人に親節一連宛可きに在依り
合におれり通り可きに
在依り外寄物振起り在依り妻子
山廻りより在依り事 在依り在依り
所礼可内在依り
一 宗寺に町役人入目依り町内
入目在依り通り在依り
一 家守在依り人
一 一取上も在依り
不念捨在依り及入在依り上在依り

此亦之隨守居屋處之法乃靈江新社在江傍持不社傍

右社位以額戶六字字久此字係之故志為松山領內者上

子九月朔日

右書附寫延享二丑年四月十七日在河山守本年中勢太補及

下總中田宿八幡宮之神主之移去和古師之事

一月寺本則

普化常於街市搖鈴曰明頭來明頭步暗頭來暗頭
步四方八面來旋風步虛空室架步臨海令侍者
繞見如是道使抱住日總不微來時如何普化抱
開日來日大慈院裏有濟持者回舉似師添曰

我待來 類看 這漢

尺八

夫尺八者法器之一也謂尺八大數也取三節之
中而定上下之長 雜各有所表三節者三才
上下之二竅者日月裏面五穴者五行也此是
一物之深源也吹之則一物與我歌具而心境
一如也

天盖

夫天盖者莊嚴佛成之具也我門准擬之

乾坤 六腑

夫乾坤者天地取天地生成一物之儀也六腑者
資益諸根色身住者故表保生之資具而領
納旋懷之其喻可知也
靈山一月影輝萬流普化孤風德馥三灵維時

年号月日

下総国高師郡風町庄小金宿

金龍山二月寺現住

附與誰

鈴鐸詰

普化禪師居常入市振鐸曰明頭來明頭步
暗頭來暗頭步四方八面來旋風步虛空來
連架步一日臨濟令僧捉住曰或不明不暗
來形如何師抱問口來日大慈院裏有祇僧
回攀似涿々曰我從未短者這溪凌霄峰須
岩雲人普化堂中第一祖廊嶺山
鈴法寺現住嘯山勇克叟

附與

僧名誰

次竹名何誰

夫尺八者三国傳來二普化禪宗之法器也然二
此誰因世紛吹竹依終練竹名一希山僧欲
永證不得止吹竹名呼其塞責

年号月日

鈴法寺

何誰

附與之

武家

年來尺八律年練我宗真二以思也身是祖古則法
若一彼一卷令授与一於口矣一通一以位作可有一以上
年号月日

一月寺

實名

何誰殿

控寺門中誰世及行脚在願一身一居一律一園一所一海一陸
平古遠山通一下一在一在一行一苦一り一か一其一知一一一宿一後入願

寺存以上
年号月日

善化宗門惠平寺
下院也少全宿
一月寺下

諸国処

諸国如法番元中

同処

諸寺院法中

国々宿々村々

庄屋中

住来

世虚云住持寺門中々拾五口有官国々
法園洲海兵云云遠口通一可々以上

武共青梅新町

於法寺

墨下

四

律園新

諸寺方丈

新々庄屋中

款尋寺々 又做々四園如々修々宿々中々以所一在通
以世以園新々私領一法實不案門石住果乃見在通
了々

覺

一 本寺一住職人其来方若古方中子仲乃以元洋撰念
多々定々一紙一陸手由諸師子以古對法後任契約并々
遠状不可々々未古一住職々々寺々中子古若從何古古

一 可居在凡事

一 中子賢弱、後以是人愆云、沈文の極、乃有不法進致余
子の抱をいす

附 虚云僧の作法、古来未定、通、後中、法入念、云、
下、付事

一 本寺、昔、中、有一宗、法、令、法、法、科、科、者、乃、本、寺、可
任、差、系、大、科、科、後、通、事、乃、知、二、法、者、乃、付、以、理、不、
佛、住、乃、交、事

右、條、可、若、守、若、於、遠、肖、可、乃、曲、更、者、
延、宝、二、丁、巳、年、十、月、十、八、日

右、按、律、下
板、石、見、下
小、山、城、下
虚云僧、法、流
同、本、寺、中、
末、寺、中、

虚云僧宗門性古、按十七條

按

一 清云、依、法、法、度、若、端、不、及、事

一 宗門、法、式、不、可、在、礼、若、不、行、跡、之、單、有、三、意、後、可、及、沙
汰、事

一 不知、一、宗、法、式、僧、侶、見、孫、不、可、立

附、新、法、不、可、執、行、寄、怪、法、事

一 本、寺、之、親、式、不、七、礼、不、勒、若、單、理、不、之、本、寺、之、天、可、及
沙、汰、事

一 宗門、如、古、法、聞、晨、日、夕、者、經、者、後、之、悔、意、下、和、事、本、寺、建
立、山、附、之、乃、檀、越、之、寄、掛、隨、自、力、建、立、一、可、乃、其、寺
古、通、事

一 有、由、諸、附、有、中、子、皆、櫻、不、下、虚云、佛、若、之、按、依、和、有、之、夫
能、之、問、此、本、交、定、云、沈、文、之、致、所、乃、之、按、事

- 一 性来仍脚（子亦不定）一宿依酒博奕事持庸可
- 一 佛止月後不可夜行多作事
- 一 中子亦大小不可持若及他（虛空僧不持）三押在表
- 一 度師通下所事
- 一 徒徒堂企厨虛空僧不以合事業不可夜若益吹火急度
- 一 了（付事）
- 一 縱許乃中子致年方意出乃却回又往（同）意不他方
- 一 今矣事（可）在在事
- 一 他依（虛空僧致仕初序申）之知有（一）候遠弘明
- 一 可托（在事）
- 一 法歌昨欲益密通情來（事）之法在背計
- 一 江戶吹入（虛空僧初力）主情（許）其昨通虛空僧
- 一 寺院入贊物不可名利付（置）行休櫻（不可）地荒寺中事
- 一 降（勿）之（意）利（教）（傳）可若（裝）裝（夜）有（教）（中）矣（矣）

加衣沙衣或大脚布可持八八之事

下札

何寺以下有子多依（常）（口）和（日）前（御）布（虛）空（僧）（及）具
 右傳（餘）準（之）以（純）校（子）實（紀）（之）乃（護）支（步）行（之）恩（之）切（未）
 我（之）印（事）業（徒）名（利）同（紀）（之）（之）勒（若）世（旨）於（古）宿（之）意（及）
 了（付）事（也）仍（如）件

十時

珍法寺

延定六丁巳年林障吉祥日

虛空僧宗門本刹付与仁来中法少仍（忘）以書付（達）（去）

請小虛空僧寺院惠願以中事

武只青梅新所

鈴法寺

一 虛空僧宗門本刹俗家（附）其（依）性（卡）（滿）西（支）死（下）（之）

おつたに似者を見合ふに互捕りて去る者あり始り
この寺は古寺古堂僧人の賣りし向後五寺平隠を以
て賣買を以て度候去願の付候に通し作付也右形
類意にも不詳に付合平に地也

一月寺儀本別等取付し五斗者一室の所對し伏
せし法退院の法書在る由は月知亦供儀より一月寺
儀今と云斗者之付有し儀り去候に根由申すに申す
之に右来より寺法も有し儀り此處方寺法に類振
れし一月寺儀可なり此寺は右形に對し儀評儀仕在何
了し首を月止候に申す作付也一月寺儀に在候に
役傍候は法儀右方寺法に儀味仕知本別書儀
者に在来は五斗者并付差を一室別室差を以て申す
取付通し之に根由申すに申す此寺は右形に對し儀
評儀仕知儀而申文是より右形に類意申すに儀

書付通意致寺等根に候に候し一箇の寺儀に
九月

一箇
青梅
行儀也

右寺の寺利書由の者は法附と候是迄一月寺に申す
て但令士商に在るに法附與来法法にて去儀に交
候に所家者も法に思を以て申すに法附と申すも
尺八の儀者も由り申すに申すに在候由一月寺者
行儀に申すに由候に申すに申すに申すに申すに
五寺に申すに申すに申すに申すに申すに申すに
申利一室に申すに申すに申すに申すに申すに申すに
右形に申すに申すに申すに申すに申すに申すに申すに
百姓所人申すに申すに申すに申すに申すに申すに申すに

少神事正德二年二月朔日執行江近十三殿乃其依之由之
而如く社祀之儀天下五年以武運少長久之事凡在社
事

一 元禄十六年壬午八月廿日西宮殿乃其儀乃其依之由之
永井保實守孫本多源正少將孫少裁許之上云云極山在社
儀之職事乃其依之由之元禄元年卯正月十八日本多源正少將孫出川
少將守孫本多源正少將孫少裁許之上云云極山在社
事

存今叙家信一依少將乃其依之由之
事

江戶儀事三社院現神主田村
史記由使
信長也信長長官田村
八五又

宝曆六子二月

板崎菅三史郎

擇神子法例

諸国散立く擇神子如傳來初節諸神勸請次
家方之擇汝執行勿論神差歸上之法之式在
荒神鎮座に後及幣帛以習合神道而檀中
之諸祈禱可相勒之者也若於困之紛敷擇
神子於致繼繼者以此判形而相改堅可停
止事

右書付之起 上殿蜜可相守之美若以新法他職而
乱家法者於有之急度可為越度者也
正德三年己酉正月十八日

神事露書
田村八太史平
板崎 兵庫平
目役人
丸山式部平

一 上野山并赤部依沢村山家紅持神子人引帳
一 依湖小徳神長久保宿 板橋共在史下

妻持神子位連箱

妹持神子 官高

姪持神子 列日

存通人別帳面是上紅少也古遠之也法如例年法是知
以通一上於可名以右神子之内給之也人古也法是若給
者与甲者以法私元 何言述之孫家急後甲法之法而後
日仍少件

年号月日

持神子組

板橋共在史下

一 右長久保宿神事 齊在史下子持神子有之 宗門帳
七引帳之是引帳之知法也教立持神子共以國所法子判
布一之通之引帳之處之也甲由三月右宿之也古也法是急後

内礼後知右通谷是之 亦書月日亦後知是也

神子之事

依儀由小徳神石所取防大明神新町取防大明神友社
神子之應着赤色千早一齊衣任先例神事神樂等可執
仕者

神通裁許 状如件

宣曆七年四月十六日

神祇官管領長上二位神 氏利日 兼權
不申

四組本綿子法 事許容神子志摩起向後可掛用之状如件

宣曆七年四月十六日

神祇官管領

右外中長後之程大後之根清淨之程古也
右之古也田家之長久保古所神子志摩起向後可掛用之状如件

止神子之官位、後も所通神主初名より云々其後、
志摩守の御代に且云々を所付、
院法金令云々子事云々不事成、
七全抄云々法を清重、
小勅の根石志摩守、
山伏官位、
長久保在所大門村山伏云々或人官位、
状に、
院號

右
三寶院御門跡被
成身院權僧正奉
仙明院

宝曆七年四月十七日

演春子寛順

平井兵部右
飯田民部右
水村伴賀平
大谷對弓平

右
錦地袈裟
三寶院御門跡被

仰事、
成身院權僧正奉

演春子
仙明院寛順

宝曆七年四月十七日
裏、右目跡
禪宗、
上包日輪寺綱宗和尚禪室權左辨顯道
總持寺任職事、應初、清宜奉初

國家安全寶祚長久者依天氣執達如件

元文二年五月九日權右中辨書判

日輪寺綱宗和為禪室

右元依上田所日輪寺輪旨寫也外書文一通有

淨土宗之僧官位之事

着香衣令卷内宣奉初室祚延長者依天氣執達

如件

元文四年七月十日

左少書判

知恩院末寺

西念寺住持仰與上人

法府

其方出世之事遂 奏用之處忝被成下和許則倫旨若
奉書遣之惟謹之頂戴可為真俗教系崇之

知恩院前大傍正

未七月十一日

依具中條村

称吳言書判

西念寺圓禮

勅許

ウツヨ

七か

ウツヨ

任持

尾少

ウツヨ

也

ウツヨ

ウツヨ

ウツヨ

依法の由

中條村

西念寺

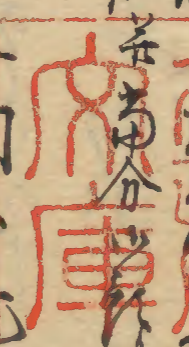
右々中條村西念寺限在知持輪旨寫也是て所書輪
旨と云

字を

山伏條行ノ節札持事ノ事

風岡寺死下ノ徒該其由由進立知ノ修行渡世ノ一ノ事
之木村ノ境ニ札ヲ建標多淋人トモ番ノ月夜神子神護小
石乃波木入條行斗云云一ノ流仲々万親類強者智ノ事
通法石乃波木由由修行護神子凡風岡寺ノ渡世事札ヲ持
以ノ一ノ事古下札見由中ノ事凡石乃波木ノ法ノ後ノ事
所ノ事凡石乃波木ノ代官知事ノ事凡石乃波木ノ渡世事

明和八年十月



右ノ明和八年十月廿八日關東支那ノ代官之儀同十石坊ノ
遠道長年爲ノ山林孫四郎ノ山村孫在爲ノ役採伊喜前法爲前
北田江市爲ノ屋山外記ノ事凡石乃波木ノ劫定所於ノ徒以進立條太
渡也

地方叢書卷ノ四

